

国際先住民年記念特別展



1993. 7/20(火)~9/19(日)

北方諸民族と現代の民族芸術

開館時間: 9時30分~16時30分

休館日: 月曜日、9月16日

特別展観覧料: 無料



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1 ☎ 0152-45-3888

北方諸民族と現代の民族芸術

北方地域に暮らす諸民族のさまざまな生活用具には、洗練されたデザインや手の込んだ装飾を施したものが多く見られ、それぞれの民族に特徴的な美の基準や表現方法を読み取ることができます。

民族芸術とは、自然環境や世界観を反映した美術工芸や音楽・芸能など、生活に根差した芸術を指す言葉です。それらは文化の担い手のアイデンティティ（帰属意識）を主張したり、精神世界を象徴するものであり、自己と自然界に存在する他のものや超自然界とをつなぐ手段でもあります。

本特別展では、国際先住民年にちなみ、現在も作られている美術工芸品の展示を中心に、また映像などをおして、北方諸民族の民族芸術の変遷と新しい取り組みについて紹介します。



彫刻/イヌイト

民族芸術の変遷

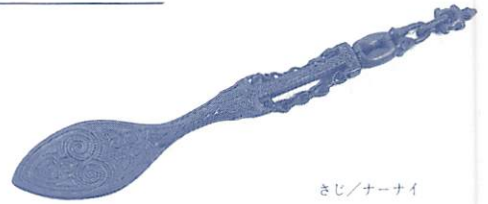
民族芸術は各民族のなかで独自に受け継がれてきただけでなく、古くから他民族との交流を通して、文様や技術などが取り入れられ発達してきました。先住民族どうしはむろん、スカンディナビアのサミでは西欧の、アムール川流域やサハリンの民族は中国からの影響を強く受けてきました。

18～19世紀になると、シベリアや新大陸の北方地域にも毛皮やクジラなどを求めて欧米人が進出し、先住民との接触が緊密になりました。交易品として、金属製品やビーズあるいは煙草、茶などの嗜好品が持ち込まれるとともに、土産品製作が先住民に依頼されることもあり、新しい物の移入と異民族の求めに応じた物の製作は、先住民の物質文化に大きな変化をもたらすことになりました。

北海道においても、江戸幕府や明治政府がアイヌ民族独自の風習を禁じる一方で、現地を訪れた役人や探検家はアイヌの木彫りや織物などの素晴らしさを数々の記録に残しています。

観光の時代と芸術

二つの世界大戦を経た後、世界的に観光ブームがおこり、北方地域の雄大な自然とともに先住民の文化も観光資源の一つとして注目されるようになりました。なかでも、民族芸術をベースとして観光客向けに商品化された装身具や室内装飾品などの生産と販売は、先住民の生活を経済的に支えるすべともなってきました。



さじ/ナーナイ



バッグ/北西海岸インディアン

21世紀に向けて

観光土産として、先住民以外の人びとの作った模造品が氾濫するようになり、近年は品質の保証と管理を目的として、先住民自らが伝統的な手法によって製作した物に商標などを付ける地域が増えてきています。

それとともに、若い人たちの間にも自民族の文化を見つめ直そうという機運が高まり、言語や民族芸術をはじめとする文化の保存と復興の動きが起っています。また従来のものに創意と工夫を加えて生みだした新しい芸術に、社会的な評価と関心が集まってきています。

◆展示協力：東京国立博物館

表写真：上から 白樺樹皮製容器/イロクオイ、ナイフ/サミ、オヒョウ用釣針/北西海岸インディアン、クリベッジ盤/イヌイト、調理用へら/北海道アイヌ

特別展開催期間中の催し

- 8月1日 講習会『北欧サミのひも作り』
講師 当館学芸員
- 8月29日 講習会『ボーダーレス時代の北方地域研究』
講師 池谷和信氏（北海道大学）
- 9月12日 講座『アムール中流域の鞅鞅・女真文化』
講師 ニコライ・クラディン氏（ロシア科学アカデミー）
解説 天野哲也氏（北海道大学）

いずれも午後2時から当館講堂にて。
参加ご希望の方は電話でお申し込みください。



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples
〒093 北海道網走市字潮見313-1 ☎0152-45-3888